

常照

第862号

摂取不捨(せつしゆふしゃ)の真言
超世希有(ちようせけう)の正法
聞思して遅慮(ちりよ)することなかれ

親鸞著『教行信証』「総序」

さがしものは何ですか
みつけにくいものですか
靴の中も机の中も
さがしたけれど
みつからないのに

井上陽水『夢の中へ』

たまたま探していたものに出あった。
それを疑っているでもないし、わか
らないのでもない。わかつているのに、
ちよつとぐずぐずして、せつかく
見つけたものをまた見失ってしまう。
このことばは、そういう私たちに本物
を求める姿勢を思い出させてくれる。

「摂取不捨の真言超世希有の正法」

親鸞聖人は師、法然上人から聞いた
真理の言葉をこう呼んでいる。これこ
そがすべての人間を救いたいという願
いの精華だというのだ。

「とらえて捨てないという真理の言
葉」は、「どんな生き方をしている人で

も絶対に見捨てませんという仏の言葉」であり、同時に、「私のいのちをつかまえて離さない言葉」でもあろう。そして「世を超えた希有の法」とは、「いい生活をしたとか、あれは良いとか悪いとかいう世間の関心だけで生きている私をつき破ってくれた真理」という意味ではないだろうか。

「聞思して遅慮することなかれ」

そしてこのように呼びかける。「もしそのような言葉を聞くことができたなら、よくよくそれを思いなさい。決してあれこれと躊躇しないほしい。今、聞き取ることができなかったならば、

いつ聞き取ることができるといのか」と。「明日がある、明後日があると考えている間はなんにもありはしない。肝心の今さえないのだから」(東井義雄)という詩がある。

せつかく与えてもらった花を枯らしてしまふことがないように。花に水を与えて育てていくのは、与えられたものの仕事なのだから。

身意柔軟(しんいにゆうなん)にして
歡喜踊躍(かんぎゆやく)し
善心をここに生ず

『大無量寿経』

『大無量寿経』のこの「善心」という

言葉の「善」を私どもは道徳的な善悪の意味で理解しがちである。このような宗教上の言葉を受け止めるときに、人間の行為の上でやってよいこと、悪いこととしてとらえて、つい「善」が要求されていることとして理解してしまふ。ここで述べられている「善」は、人間の善いとか悪いとかの相対的な価値判断を越えて、あくまで、仏教の立場からその意味が表現されているのである。つまり、「善心」は仏の悟りの知恵を受容する相、すなわち、人間としての生きる喜びの姿を表現しようとしているのである。

そして、この言葉の前に「身意柔軟にして」とある。この「柔軟」はまさ

に柔らかくして、そして、しなやかなことである。つまり、豊かにして安らかな、我らの「こころ」と「からだ」のあるべき姿が相念されている。

おおいなる「知恵」と「いのち」にふれたことの具体的なはたらきが、われわれの「からだ」と「こころ」を柔軟に、明るくものにしてゆくのである。

私たちの生活環境は、かつてなかったほど豊かで便利なものとなっており、こんなにも恵まれていていいのかと思うほどである。しかし、その環境がいろいろな意味で大変な犠牲の上に成り立っている事実をテレビや新聞によって突きつけられると愕然とするのである。国家や企業の対応は我々なりに十

分に見届けなければならぬが、自分なりにやれることからやっていくことも必要である。

しかし、必要以上の危機感も、かえって問題のすり替えに終わる場合がある。最近のある種の「宗教ブーム」にも悲観的状况をきわだたせることによって宗教に眼を向けさせるといふ問題のすり替えがないとは言えない。

今日の地球規模で取り組まなければならない人類の課題を本当に解決するのは、じつはこの「柔軟心」ではないだろうか。



自分を悩ませる

問題しか

自分を

立ち上がらせる

御縁はない

発行所

☎047-0017

小樽市若松一丁目四番十七号
本願寺小樽別院

電話 二三一〇七四番
FAX (〇二三四) 二九一四〇八番
テレホン法話 二七一六一六番